

津山市立西小の5年生が、農産物の地産地消を呼びかけるオリジナルシールを作りました。記事を読み質問に答えましょう。

食料問題、価格高騰… 津山・西小5年発案



城西浪漫館で「嬉シール」をデザインしたチラシを披露する西小5年生

地産地消へ「嬉シール」

津山市小田中、西小の5年生29人が農産物の地産地消を呼びかけるオリジナルのシール「嬉シール」を作り、24日まで「まちの駅 城西浪漫館」（田町）と「津山まちの駅城西」（西今町）で地元産野菜の購入者に配っている。食料問題や食材をはじめとする価格高騰への問題意識から児童が発案した。（小林貴之）

山盛りの野菜 デザイン 地元産購入で配布

シールは直径6センチの丸形。籠に山盛りになったハクサイやジャガイモ、ダイコンといった野菜を描き、「津山のめぐみ」「これは、100%地元のお野菜です」とPRしている。買い物客の支払い1回につき1枚をレジで配布している。

デザインは高橋千紘さん（11）の原画に他の児童のアイデアを反映させた。名称は「うれしい」「売れる」といった願いを込めて岡村亮秀君（11）が考えた。

5年生は10月、社会科で日本の食料自給率の低さや物価高について学習。地産地消を進めることが課題解決の第一歩につながると考え、学区内で地元産品を多く販売している両施設でのPRを思いついた。「嬉シール大作戦」と銘打ち、今月16日にあった同小の学習発表会で取り組みを報告し、17日からシールの配布を始めた。

柳本七珠さん（11）は「地産地消を広げるために自分たちに何ができるかをみんなで考えた。シールを通じて身近な場所でおいしい野菜を売っていることを多くの人に知ってもらいたい」と話している。

11月19日付山陽新聞、作州ワイド版

Q1 地産地消は「地元で生産されたものを地元で消費する」という意味です。西小の児童が作った「嬉シール」は、どんな人に配っていますか。第1段落を読み答えましょう。

Q2 西小の児童は、なぜこのシールを発案したのでしょうか。見出しや第1、4段落を参考に答えましょう。

Q3 皆さんが住む地域で、地産地消を進めたい農産物がありますか。地産地消を広げるアイデアも考えてみましょう。

過去の問題は
こちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。